

良田平田遺跡

よしたひらた いせき

古代の大型
建物出現



国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より

<3区>

ほくしょ
【続々みつかる墨書土器】

墨で文字が書かれた「墨書土器」が、平安時代（約1100年前）の溝から続々とみつかり、発掘されたばかりの状態だと土器の表面に土が付いているため、文字があっても気付かないことがあります。発掘後に持ち帰ってきれいに水洗いすると、文字が見えるようになるので墨書土器だとわかります。

これまでにみつかった墨書土器のうち最も多く書かれている文字は「門」で、前回ご紹介した土器にも「門西」や「門東家二」と書かれていました。「門」以外に「畠」や「井」、「馬」、「田（男）？」など様々な文字があり、それが何を意味しているのか検討しているところです。



「門」



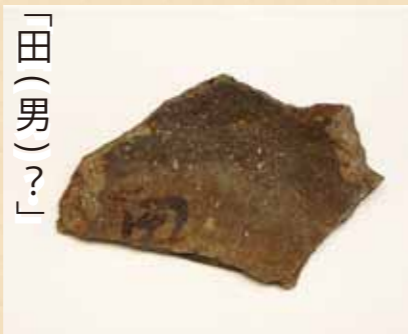
「畠」



「井」



「馬」



「田（男）？」



字の書き方もいろいろね。字を書く人が何人もいたのかなあ？

【大型建物の柱穴】

墨書土器が見つかった溝の東側では、直径約40cmの柱穴が多数見つかりました。これらは、平安時代（約1100年前）の建物の柱穴と考えられます。中には、穴の直径が約1mと大きく、直径約30cmの当時の柱が残っているものもあります（写真①）。柱の規模からすれば、大型の建物が建っていたことが推測できます。

今後みつかった柱穴の配置や埋まっている土を検討し、墨書土器に記された「門」や「家」のような建物があったのか、明らかにしていきます。



※①は柱穴の跡

鳥取西道路の

遺跡を掘る！

第28号 2011年8月24日

教科書にも登場する「縄文」と「弥生」の名。ときには土器に、ときには時代を表すのに使われています。でも、どうして、このような名前が付いたのでしょうか？



- ① 高住牛輪谷遺跡 (鳥取市高住地内)
- ② 高住井手添遺跡 (鳥取市高住地内)
- ③ 高住平田遺跡 (鳥取市高住地内)
- ④ 良田平田遺跡 (鳥取市良田地内)

鳥取西道路予定地

名の由来 — 縄文と弥生 —

縄文

「縄文」の名は、日本初の本格的な発掘調査で出土した土器の特徴に由来します。1877年、東京都品川区にある大森貝塚を発掘したアメリカの動物学者 E・S・モースは、出土した縄目文様の土器を「cord (縄) mark (文) pottery (土器)」と命名しました。これを日本語訳にしたのが「縄文 (式) 土器」です。

その後、縄文土器を使用していた狩猟・採集の時代を「縄文時代」と呼ぶようになりました。日本列島で土器の使用がはじまり、稲作が開始されるまでの1万年以上におよぶ長い長い時代です。



(鳥取県の縄文土器)



(鳥取県の弥生土器)

一方、「弥生」の名は、縄文土器とは特徴の異なる1個の土器の発見場所に由来します。大森貝塚の発掘から7年後の1884年、場所は東京都文京区弥生町。発見されたのは、装飾がひかえめで、形の洗練された壺でした。そして、この壺に与えられたのが「弥生 (式) 土器」の名称です。

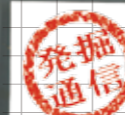
その後、弥生土器を使用していた人々が農業を行っていたことなどが明らかになりました。今では、日本で本格的な稲作がはじまる紀元前7～5世紀頃から前方後円墳が登場する3世紀中頃までを「弥生時代」と呼んでいます。

弥生

(財) 鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所

〒680-1133
鳥取市源太 12 番地
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)

TEL : 0857-51-7553
FAX : 0857-51-7550
メールアドレス :
matsuik@pref.tottori.jp



残暑きびしい日が続いています。発掘現場では、突然の雨にびしょ濡れになるときもありますが、お盆も明けて発掘調査もいよいよ後半戦がスタートしました。9月になると、そろそろ見頃をおかえる遺跡もあります。現地説明会の開催が決まりましたら、いち早くホームページや通信でお知らせしますのでお楽しみに!!

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

高住牛輪谷遺跡

たかすみ うしわだに いせき

弥生時代の
お墓?

8月に入って、白い粘土の層を掘り込む長方形の穴がみつかってきました。その穴の中の土には、白い粘土のかたまりが多く含まれており、掘った直後に埋め戻されているようです。

土器の中には、美しい文様をもつものもあります。お供え用にきれいに飾ったものでしょうか。



この穴の上部からは弥生時代後期(約1700~1800年前)の土器が出土していますが、その中には高杯や器台といった、お墓にお供えされることの多い土器の破片が数多く含まれていました。穴の長さは1~1.5mほどで、形や大きさから、お墓の可能性が考えられます。

現在、長方形の穴を20基ほど確認しています。弥生時代後期には、ここに集団墓地があったのかもしれませんが。

高住井手添遺跡

たかすみ いでとえ いせき

編みカゴの
集中エリア?

縄文時代晩期(約3000年前)の川の中からは、これまでに9点の編みカゴが出土しました。中には現代のバスケットとみまがうほど美しく編まれたカゴもみつっています。



川の中には、大きな木を横倒しにして水の流れをふさいだと思われる場所がありました。

実は9点のカゴのうち、8点がここから出土しています。

カゴの周りからは、トチやクルミ、ドングリなどの木の実が多くみつっています。実の中にある虫を殺したり、アクを取ったりするための「さらし場」として利用されていた場所なのかもしれません。



北側の横木



編みカゴが集中して
出土するエリア

南側の横木

トチやドングリは、アクを取らんとシブいが~



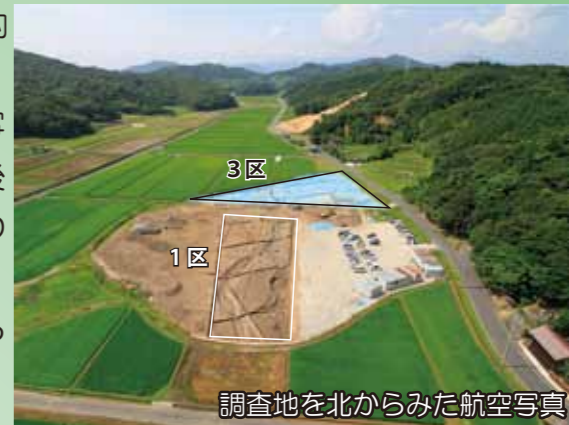
高住平田遺跡

たかすみ ひらた いせき

中世の川
みつかる!

1区では、室町時代から江戸時代初めごろ(約300~500年前)の遺構の調査が終わりました。その結果、調査区にはもともと川(下写真の白色部分)が流れていて、川が埋まった後に溝(写真の青色部分)がつくられたことがわかりました。

調査区の南側では、溝と川はほぼ同じところを流れていました。



調査地を北からみた航空写真



1区を北東からみた航空写真



護岸のために置かれた石を南からみたようす

溝が川とは異なる方向に流れを変える部分では、多くの石がみつかりました。石は主に溝の両岸にありました。

この部分は溝の下にある川が砂で埋もれているため、ほかのところと比べて崩れやすくなっていました。おそらく、これらの石は溝が崩れないよう補強するために置かれたものと思われます。